

# 22PO-am391

視覚や質問から薬剤師がフィジカルアセスメントを行うための検索サイトの作成  
○徳永 仁<sup>1</sup>, 興梠 靖幸<sup>2</sup>, 本松 梓<sup>1</sup>, 児玉 千晶<sup>1</sup>, 中 良弘<sup>1</sup>, 甲斐 晃弘<sup>2</sup>, 緒方 賢次<sup>1</sup>,  
瀬戸口 奈央<sup>1</sup>, 高村 徳人<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>九州保福大薬, <sup>2</sup>千代田病院薬)

【目的】副作用の早期発見や薬効の確認を目的に、その手段として薬剤師にフィジカルアセスメントに関するスキルが求められ、すでに薬剤師はそのスキル取得に向け研修会などに参加しながら修得し、現場において実践している。これまでに我々もシミュレータや e ラーニング教材を活用して、それらの基本的知識やスキルについて教授してきた。しかしながら、それらの内容はバイタルサイン、聴診音や非侵襲的医療機器などから得られた数値や音が中心となっており、患者応対時に重要となる視覚からのアセスメントや質問に対する回答からのアセスメントなどは多くを扱ってこなかった。そこで、視覚や質問から薬剤師がフィジカルアセスメントをスムーズに実施するためのデータベースを作成し、アセスメントの際の参考となるような検索サイトの作成と公開を目指した。

【方法】フィジカルアセスメント関連の医学図書を参考に、薬剤師において必要と思われるアセスメント内容と項目をエクセルシートに入力した。項目としては「部位」「具体的症状」「対象疾患・副作用」「解説・説明」に分け、「部位」と「解説・説明」はそれぞれ“程度・症状・部位別”と“図”“備考”(一部)からなる。検索サイトでは、エクセルシートに入力した内容をデータベースとし、「部位」「程度・症状・部位別」「具体的症状」から絞り込み検索を可能にした。

【結果・考察】研究室ホームページにおいて公開した。エクセルシートには難解な症状など原画をもとに新たな“図”を作成した。また「解説・説明」はシンプルになるように心掛け、長文となる際は“備考”に入力した。検索サイトは無料にて利用可能である (<https://simlab.phoenix.ac.jp/>)。今後は薬剤師や薬学生に容易に使用できるようにアプリとして公開できるように改善する予定である。